

宿と地ビール 新名所に



上秋月銀行跡地で営む1棟貸しの宿「月の離なれ」
下1階に仕事用スペース兼キッチン、2階には寝室
3室がある新館

地元の水を使い、倉庫を
改装した醸造所（後ろの
建物）で造ったクラフト
ビール「秋月クラフト」

醸造所も整備 「地域の価値高めたい」

井村さんは敷地内の民家の改装から手を付け、21年11月から素泊まりの宿「月の離なれ」の営業を開始。1年後の22年11月には、仕事用スペース兼キッチンを備えた全3室の新館（素泊まりで1室税込み1万3200円）をオープンした。部屋や庭からは古処山系の山々が望め、夏には横の小

「こうした状況に知らなりふりをしたままいいのを再生させ、人を呼び込み、地域の価値を高められないだろうか」。そう考えるようになった。

◆ ◆ ◆

井村さんは敷地内の民家の改装から手を付け、21年11月から素泊まりの宿「月の離なれ」の営業を開始。1年後の22年11月には、仕事用スペース兼キッチンを備えた全3室の新館（素泊まりで1室税込み1万3200円）をオープンした。周辺にも似た事例が出てく

古処山系の麓に位置する朝倉市秋月地区。城下町だつた約58秒は、国の「重要伝統的建造物群保存地区」

に指定され、1899年に井村さんの曾祖父市太郎さんが設立した秋月銀行の跡地は、その中心部を貫く秋月街道沿いにある。「旧秋月銀行設立之地」。そう書かれた石碑から山手に広がる約2400平方㍍が井村さんの敷地だ。

井村さんは福岡市在住の税理士。秋月に暮らしたこ

福岡銀行の源流となつた地場銀行の一つ、旧秋月銀行（朝倉市）の創設者のひ孫に当たる井村幸男さん（74）が、銀行跡地で町おこしに取り組んでいる。一緒に宿泊施設やクラフトビールの小規模醸造所を整備し、3月下旬から現地でビールの一般販売を開始する。名産品として育て、秋月地区に多くの人を呼び込む夢が膨らむ。

銀行跡地 創設者ひ孫が活用

城下町秋月で町おこし

ではないが、跡地を相続し、川付近で飛び交うホタルが縁あって2018年に秋月銀行関連の資料を福銀に寄贈した縁があり、跡地利用を考えるようになった。

秋月は桜の時期などは観光客が多いが、幹線道路から離れ過疎化が進む。人口は400人ほど。保存地区内の建物は、歴史的外観を維持する家屋修理などに補助金が出る一方、思い通りに改築しづらい制約もあり、壁が壊れたりツタがはびこつたりした空き家状態の建物も目立つ。

ビール名は「秋月クラフト」。季節によって原材料を変える予定で、第1弾は小麦を多く使った白ビール（330ミリ税込み800円）。花見客が多く訪れる3月21日～4月2日に宿の軒下で販売し、その後、観光客が多い時期に現地で販売する計画だ。周辺の別旅館での提供も決まった。地元のかんきつ類で風味付けしたビールも計画中だ。

宿や醸造所など一連の整備費用は各種補助金約5千万を含む、計約1億5千万円。井村さんは「自分ができるのはここまで。理念を理解して運営できる人がいれば引き継ぎたい」との考

え。「物件の価値を高めて売却する成功例となれば、見られるという。倉庫を活用したクラフトビールの「秋月城下町醸造所」は本館と新館の間にあ

（仲山美葵）